

2023 AC

The 2<sup>nd</sup> Celebrate Hanukkah

原語で味わう創世記第2章

12/24~31

No.3 25日(夜)

# 「創世記2章」を学ぶ上で大切な視点

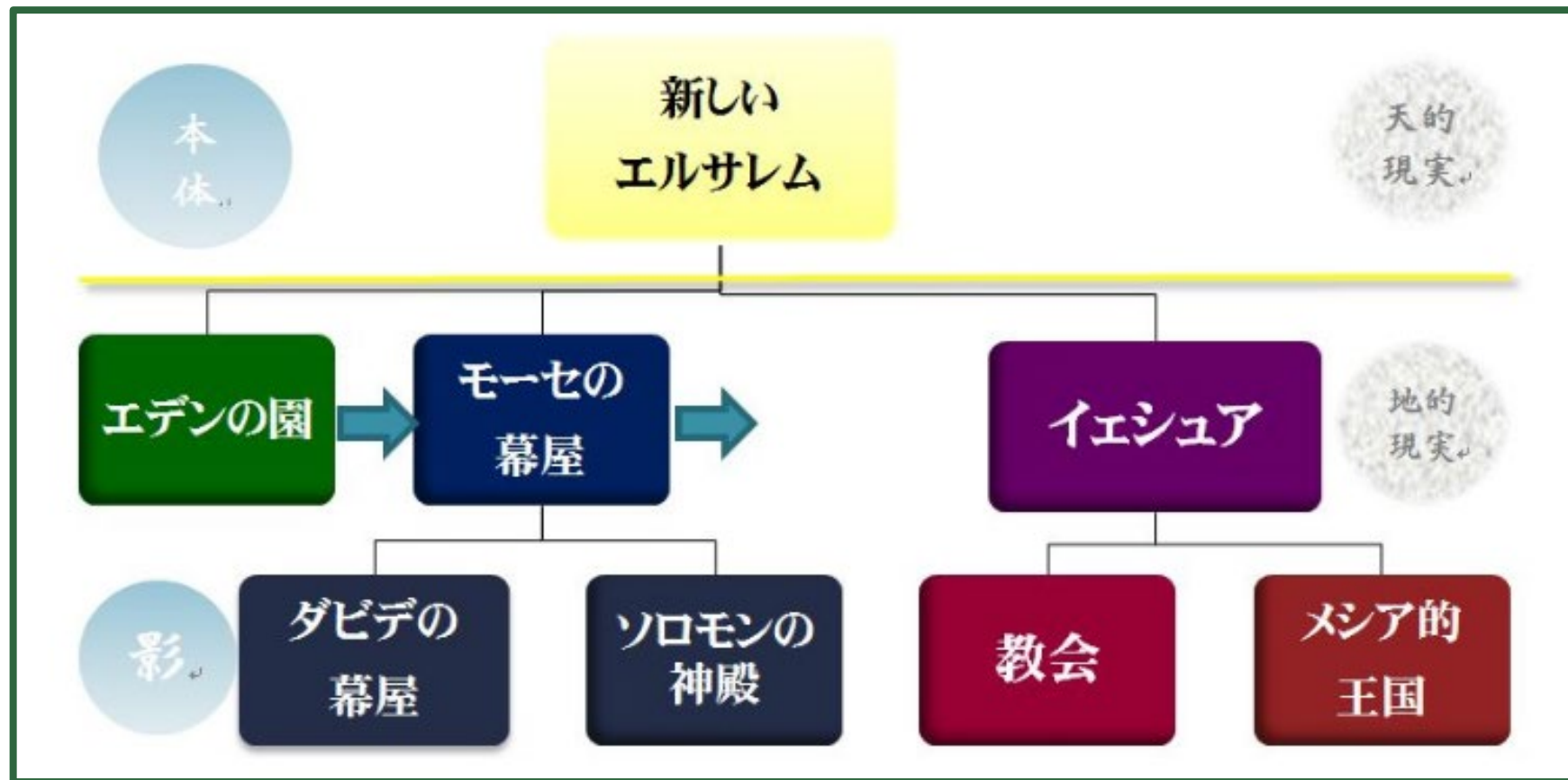
【新改訳2017】  
イザヤ書 46章10節

わたしは後のことを初めから告げ、  
まだなされていないことを昔から告げ、  
『わたしの計画は成就し、  
わたしの望むことをすべて成し遂げる』という。

(二重の同意的パラレリズム)

# 「エデンの園」の本体は「新しいエルサレム」

- それは「天」にあり、しかもすでに完成されているのです。



# 1. 前回の補填 ①

●前回、「人」は「神を入れる器(容器)」として形造られた(「ヤーツアル」 אָדָם)ことを学びました。

【新改訳2017】創世記2章7節

神である主は、その大地のちりで人を形造り、  
その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。

●神はモーセに対して、ご自身の名を初めて「主」(יהוה)として啓示しました。主という名は「贖い」の概念を含んでいることをすでに学びました(出6章)。とすれば、地(エレッツ)における「その大地」(הָאָדָמָה)とは「エジプト」を意味し、その大地の「ちり」とはイスラエルを指すと考えられます。主なる神は、ちりを粘土として形造り、火という試練を通して、やがて神の栄光を啓示する「あわれみの器」とされるのです。神のご計画はイスラエルを基軸として展開し、成就されます。さらに、イスラエルに接ぎ木される異邦人も、そして最後のアダムも、この「人」の中に重層的に含まれているのです。

# 1. 前回の補填 ②

## ● 神が陶器師としてたとえられています。

### ① 【新改訳2017】 エレミヤ書18章2～6節

- 2 「立って、陶器師の家に下れ。そこで、あなたにわたしのことばを聞かせる。」
- 3 私が陶器師の家に下って行くと、見よ、彼はろくろで仕事をしているところだった。
- 4 陶器師が粘土で制作中の器は、彼の手で壊されたが、それは再び、陶器師自身の気に入るほかの器に作り替えられた。5 それから、私に次のような主のことばがあった。
- 6 「イスラエルの家よ、わたしがこの陶器師のように、あなたがたにすることはできないだろうか—主のことば—。見よ。粘土が陶器師の手の中にあるように、イスラエルの家よ、あなたがたはわたしの手の中にある。…

### ② 【新改訳2017】 エレミヤ書19章11節

彼らに言え。『万軍の主はこう言われる。陶器師の器が砕かれると、二度と直すことはできない。』

## ● 焼かれた陶器が砕かれたならば、再び元の形に戻すことなどできません。

ところが、神である主はそのことが出来る「**あわれみの神**」なのです。

# 1. 前回の補填 ③

③【新改訳2017】ローマ人への手紙9章21, 23~24節

21 陶器師は同じ土のかたまりから、あるものは尊いことに用いる器に、別のものは普通の器に作る権利を持っていないのでしょうか。

23 しかもそれが、栄光のためにあらかじめ備えられたあわれみの器に対して、ご自分の豊かな栄光を知らせるためであったとすれば、どうですか。

24 このあわれみの器として、神は私たちを、ユダヤ人の中からだけでなく、異邦人の中からも召してくださったのです。

● 聖書は、私たち(イスラエルに接ぎ木された異邦人)も神のあわれみの器として召されたと述べています。「器」は本来、何かをするために使われるのではなく、何かを入れるためのものです。神は私たちが「神の豊かな栄光を知らせるためのあわれみの器」になることを願っておられるのです。

※ 「あわれみの器(複数)」 = 「ケレー・ハハニーナー」 (כְּלֵי־חַנִּינִיָּה) 「ハハニーナー」の中に、神の「ハーナン」 (חַנָּן)があります。

# 1. 前回の補填 ④

● 神の民は、神の宝であるキリストを入れる容器です。それは同時に「**あわれみの器**」(23節)である、とパウロは語っています。これはどういうことでしょうか。「あわれみ」のヘブル語動詞「ハーナン」(חָנַן)が、イエシュアによって発動されるときに、決まって**〔同情+行動〕**がなされます。それは「かわいそうに思って、あわれんで」と訳されるギリシア語「スプラクニゾマイ」(σπλαγχνίζομαι)です。マタイ18:27, ルカ7:13, 10:33, 15:20などを参照。

● ダビデにしても、盲人にしても、「神よ、私をあわれんでください」と祈るとき、神(イエシュア)は黙ってはおられません。破格の待遇がなされるのです(詩篇51:1、マタイ20:34、ルカ18:13)。そのような待遇を受けた人は、神のあわれみを証しする器とされることがどういうことかを知るので、このような人こそ「あの書」に記されているのです。

# 1. 前回の補填 ⑤

●創世記1章では、神がご自身のかたちに人を創造(「バーラー」<sup>אֱלֹהִים</sup>)されました。しかし、2章では「神である主が人を形造った(「ヤーツアル」<sup>יָצַר</sup>)」とあります。それは以下にまとめることができます。

①神である主が、人を「神の栄光を啓示するあわれみの器」として形造られたということ。

②神はその器に「いのちの息」を吹き込んで、人を「生きるもの」とされたということ。このことによって「地と天」はつながりました。

●神の器(=容器)を「あわれみの器」として「形造った」(「ヤーツアル」<sup>יָצַר</sup>)という視点は、続く創世記3章を解釈する上でも、また聖書全体を理解する上でも、きわめて大きな影響をもたらすことになります。



## 2. 2章8節(テキスト)

**【新改訳2017】 創世記2章8節**  
神である主は東の方のエデンに園を設け、  
そこにご自分が形造った人を置かれた。

●この箇所ですべて初めて登場する語彙は四つです。

- ① 「東の方の」
- ② 「エデンの園」
- ③ 「設ける」
- ④ 「置かれた」

●これらの語彙を、一つずつ取り上げてみたいと思います。

### 3. 「東の方」「ミツケテム」(𐤓𐤕𐤌𐤍) ①

●多くの聖書が「東の方、東の方の」と訳しています。ところで「東」を意味する「ケテム」(𐤓𐤕𐤌𐤍)ですが、どこを起点として東の方なのかが明確ではありません。この語彙は「東」のみならず、「昔、以前、前」をも意味し、「時の起点」を表す前置詞の「ミン」(𐤍𐤍)の省略形「メーム」(𐤌)を接頭語とした用法で、「**以前からある**」(𐤓𐤕𐤌𐤍𐤌)、つまり「**人が創造される以前からあった**」とも解釈できるのです。用例としては、イザヤ書45章21節と46章10節などがそうです。

#### ①【新改訳2017】イザヤ書45章21節

告げよ。証拠を出せ。ともに相談せよ。だれが、これを**昔から**(𐤓𐤕𐤌𐤍)聞かせ、以前から(𐤍𐤍)これを告げたのか。わたし、主ではなかったか。わたしのほかに神はいない。正しい神、救い主、わたしをおいて、ほかにはいない。

### 3. 「東の方」「ミツケテム」(ロツヅメ) ②

② 【新改訳2017】 イザヤ書 46章10節

わたしは後のことを初めから告げ、まだなされていないことを  
**昔から**(ロツヅメ)告げ、『わたしの計画は成就し、わたしの望むことを  
すべて成し遂げる』と言う。

③ 【新改訳2017】 ネヘミヤ記 12章46節

**昔から**(ロツヅメ)、ダビデとアサフの時代から、歌い手たちの  
かしらたちがいて、神への賛美と感謝の歌がささげられた。

④ 【新改訳2017】 詩篇74篇12節

神は **昔から**(ロツヅメ)私の王 この地において 救いのみわざを行う方。

⑤ 【新改訳2017】 詩篇 77篇11節

私は 主のみわざを思い起こします。

**昔からの**(ロツヅメ) あなたの奇しいみわざを思い起こします。

### 3. 「東の方」「ミツケテム」(ロツケム) ③

⑥ 【新改訳2017】 詩篇78篇2節

私は口を開いて たとえ話を **昔からの**(ロツケム)謎を語ろう。

⑦ 【新改訳2017】 ミカ書 5章2節

「ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたからわたしのためにイスラエルを治める者が出る。その出現は**昔から**(ロツケム)、永遠の昔から(ロツケム)定まっている。」

● 「ミーメー」(ミム)は「ミヨーム」(ミム)の複数連語形。

「昔から(ロツケム)」と「永遠の昔から(ロツケム)」とは同義です。  
限りなく本体に近いものですが、実体は写しと影なのです。

### 3. 「東の方」「ミツケテム」(ロツアム) ④

- 「ミツケテム」(ロツアム) を「東の方、東に」と訳している箇所。
- ① 【新改訳2017】創世記 3章24節  
こうして神は人を追放し、いのちの木への道を守るために、ケルビムと、輪を描いて回る炎の剣をエデンの園の東に置かれた。
- ② 【新改訳2017】創世記 11章2節  
人々が東の方へ移動したとき、彼らはシニアルの地に平地を見つけて、そこに住んだ。
- ③ 【新改訳2017】創世記 12章8節  
彼は、そこからベテルの東にある山の方に移動して、天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。彼は、そこに主のための祭壇を築き、主の御名を呼び求めた。
- ④ 【新改訳2017】創世記 13章11節  
ロトは、自分のためにヨルダンの低地全体を選んだ。そしてロトは東へ移動した。こうして彼らは互いに別れた。

## 4. 「エデンの園」①

### (「ガン・ベエーデン」 גַּן־בְּעֵדֵן )

- 「ガン・ベエーデン」 (גַּן־בְּעֵדֵן) は「**エデンにある園**」の意味で、二つの語彙から成っています。「エデン」(「エーデン」 עֵדֵן) とは「楽しみのある贅沢な所」であり、「良いものがたくさんあってそれを思いのまま食べてよい所であり、しかも豊かな水のある所」です。
- 「ガン」 (גַּן) とは「四方で囲まれたところ」という意味です。「四」は「すべて」を象徴する数です。七十人訳は「ガン」を「パラダイス」と訳しています(創世記2:10, シラ書24:30, イザヤ書51:3)。旧約で「エデンの園」という表現は、創世記2章8節の他に、2章15節、3章23, 24節、エゼキエル書36章35節、ヨエル書2章3節の6回です。特にエゼキエル書36章35節には、メシア王国において、荒れ果てていたイスラエルの全家が再び耕されて、**エデンの園のように回復することが預言されています。**

## 4. 「エデンの園」②

(「ガン・ベエーデン」 גַּן־בְּעֵדֵן )

【新改訳2017】エゼキエル書 36章35節

このとき、人々はこう言うだろう。『あの荒れ果てていた地はエデンの園のようになった。廃墟となり、荒れ果て、破壊されていた町々も城壁が築かれ、人が住むようになった』と。

● 「エデンの園」は、神と人が一つ(「エハード」 אֶחָד)になる喜び(楽しみ)を意味することから、歴史の中で展開される「幕屋、神殿、イエシュアご自身、教会、御国、新しいエルサレム」とも言い換えることができます。詩篇36篇8節には、まさにエデンを享受している人の子らを見ることが出来ます。「彼らは あなたの家の豊かさに満たされあなたは 楽しみ(יְשׁוּעָה)の流れで潤してくださいます。」

## 4. 「エデンの園」③

( 「ガン・ベエーデン」 גַּן־בְּעֵדֵן )

### 詩篇36篇8(9)節

タシュケーム アダーネーハー ヴェナタル ベーテハー ミツデシエン イルヴェユン  
:רוקם תשקותם עֵדֵן נַחַל בֵּיתְךָ מִדְּשֵׁן יְרֵוּן  
あなたは彼らに飲ませる あなたの**楽しみ**の 流れを そして あなたの家の 脂肪に 彼らは満ちあふれる

【新改訳2017】

彼らはあなたの家の豊かさに満たされ あなたは**楽しみ**の流れで潤していただきます。

【新共同訳】

あなたの家に**滴る恵みに**潤い／あなたの**甘美な**流れに渴きを癒す。

【フランシスコ会訳】

あなたの家の**味よきもの**に満ち足りる。あなたは **喜び**の流れを かれらに飲ませる。

● 「エデン」はヨハネの福音書4章14節、7章38節のみことばの成就です。つまり、復活によって「いのちを与える霊」となられたキリストの霊の内住によるものです。



## 5. 「設ける」「ナータ」(נָטָה)

【新改訳2017】創世記2章8節  
神である主は東の方のエデンに園を設け、  
そこにご自分が形造った人を置かれた。

- 「ナータ」(נָטָה)は「植える、(天幕を)張る」という意味ですが、ここでは神が形造ったものを植えるために、園を「**設けた**」という意味で使われています。そのために、神はあらかじめ備えていた(「ミツケテム」רוֹצְאָה) エデンに、「四方で囲まれた庭」である園(「ガン」גַּן)を設けました。そして神はその園に人が食べる木を生えさせたのです。
- 黙示録21章に登場する「聖なる都、新しいエルサレム」は「エデンの園」に相当します。本体である「新しいエルサレム」(天の至聖所)には、キリストによって新創造された人々が置かれます。

## 6. 「置かれた」「スィーム」(רָשַׁם) ①

● 神である主が大地のちり(粘土)で人を「土の器」として形造り、それにいのちの息を吹き込むことで「生きるもの」としたように、人は「エデンの園」に「置かれる」ことによって、その務めを完成します。

● 「置いた」という動詞「スィーム」(רָשַׁם)は、他に「据える、任命する」といった意味があります。人は何のためにエデンの園に「置かれた」のかといえ、15節にあるように、エデンの園を「耕す」(「アーヴァド」אָרְבָּה)ためであり、それを「守る」(「シャーマル」שָׁמַר)ためです。これについては2章15節で再び取り扱いますが、この二つの語彙は「王なる祭司の務め」を意味します。その務めのために、人はエデンの園に「置かれた・据えられた・任命された」と言えるのです。

## 6. 「置かれた」「スィーム」(רָשַׁם) ②

**【新改訳2017】 創世記2章8節**  
神である主は東の方のエデンに園を設け、  
そこにご自分が形造った人を置かれた。

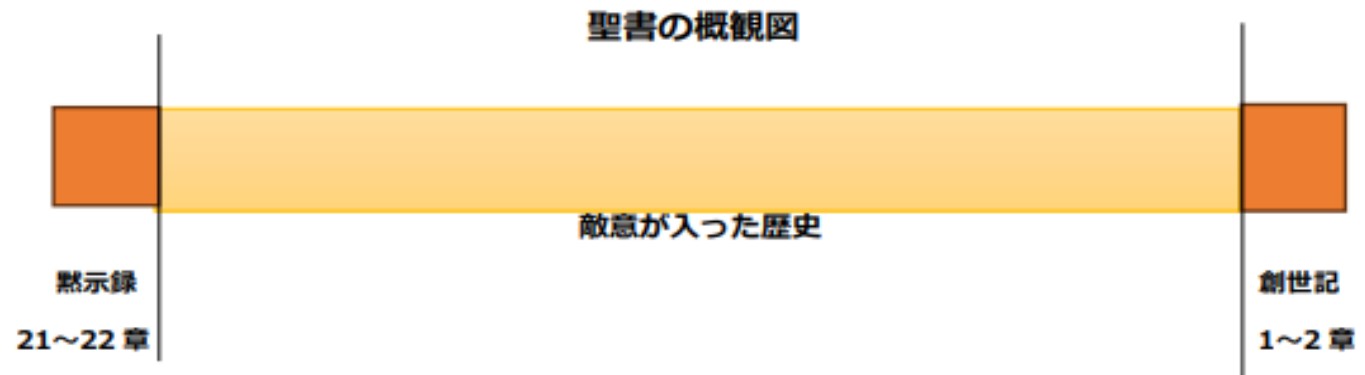
●今回、8節に初めて使われている語彙を一つひとつ見てきました。これらの中で最も重要な語彙があるとするれば、それは何だと思われますか。

〔答え〕 . . . . .

## 6. 「置かれた」「スィーム」(רָשַׁם) ③

〔答え〕は、「置いた」(「スィーム」רָשַׁם)です。

- 「置く」のヘブル語には「スィーム」(רָשַׁם)と「シート」(שָׂם)の二つがあります。前者は614回で後者は86回です。2章8節の「置いた」(スィーム)は「置く、据える、任命する、留める」といった意味があります。神が人を、ある「使命」のために永遠に置かれたというニュアンスです。しかし、3章15節の「置く」(シート)は「蛇の子孫」と「女の子孫」との間に、神が深い意図をもって敵意を期間限定で置かれたというニュアンスです。



# 今回のまとめ

- 「王なる祭司」としての務めは永遠の務めです。「新しいエルサレム」において神のしもべとして神に仕えるとき、私たちは「御顔を仰ぎ見る」のです(黙示録22:4)。私たちにいのちの息を吹き込んでくださった方の「御顔を仰ぎ見る」ことができるのは、神と人がともに住む家における究極的な祝福であり、喜びなのです。
- 主が私たちを「神の栄光を現すあわれみの器」として形造られたゆえに、「私にとって生きることはキリスト」(ピリピ1:21)、「神が、すべてにおいてすべてとなられる」(Iコリント15:28)ということが実体化されるのです。